





てはとくにすらのとくある
よもやまやする代にまも
うむじあれども牛れをと
がおぬとハサヘのうる
あるてたかゆ
きるやうれどもまく
くねうきははりやま化を
くふあたしるへあ



河より川のふるをあたひんと
くくにゆきへりてすまにうりゆ
さくおうくすくれふくらゆへ
まよいきもと月夜とくわせどと
こゑへうひなむれいとくもたと
そゆくかれとがゑをちうといふく
おほくふくととくめんりくちく
河れとつねとつねとまんあえど

けりあれとてふをほのかまうと
つくとまくとみのふばかりとまくとく
スルにいとんとまハ何ねとくとくの
つづふとやもかくとくとむとく
辞をちひと言ふとくいざく
さくひとと葉が海すてふをその
定まし奈をそのやうにむちきらと
ちくとくとくあくとくとくとくとく

にこゑをかへるよしとよす
往きの岸よあらうとほひのうひあれ
なふうしんありく。珠阿添

二

詞の巻ちうてり目録

ねほひ序

- | | |
|-------|-------|
| その歌 | 九の印 |
| 乃の歌 | 二十一の印 |
| やの歌 | 二十六の印 |
| かの歌 | 五十九の印 |
| 六十一の印 | |
| 八十六の印 | |
| その歌 | |
| 何の歌 | |
| もの歌 | |
| 九十五回 | |
| 戀の歌 | |
| 百の印 | |

この歌

百十の句

うるの歌

百十二の句

つての歌

百三十の句

五十韻

百四十一の句

とくらひの歌

百二十九の句

お悔しき

てふきはのそこのハ親も妹も親めを城たとほぞのやむ
きとくとまふをくのまほくちみ情り二つみ情れうをまえ
くくくにきば今ましゆべきふあくねくらくとけりとの差別
御ふくはれまくぬをさる身か掌めどもがくのまく一言ト
くらだつむくくよのあくらくと親乃まを一言ふくまくよく
ちもくけくは哥のまくわのゆくももせお深く母子もさ
やくふあられバ君のゆくまをのくろくされど奇哉とこもくと
御めはをあほくにあてまくわくあくらん後ハチ父がも尼くとく
まくじれ初学めがま城よしもくぬあくらく情りニ情り微
ちくそえつればりす乃もれあくたぢひのむくうくまをきげて
くぬよのぞモキスハシカホするべきあくのゆくおおうればく久も

川かて御のゆきをめぐらすまきつゝくきくお荷をアヌミ
シテベ一

上うそのや。向うそぞら。時ハ年。ハ。引ト。後。お放。
引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。引。

御車東

お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

何 や の そ
く す つ る 姉
す づ つ る 姐
ぬ み ふ じん ら
む い ふ じん ら
ひ い ふ じん ら
じ い ふ じん ら
く い ふ じん ら
さ い ふ じん ら
れ い ふ じん ら
れ い ふ じん ら

三

役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。役者。

よき。ハ。か。く。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。

| | | | |
|---|---|---|---|
| く | す | ま | ま |
| す | づ | ま | ま |
| ま | ぬ | ま | ま |
| ま | む | ま | ま |
| ま | ゆ | ま | ま |
| ま | る | ま | ま |
| ま | り | ま | ま |
| ま | ま | ま | ま |
| ま | 役 | 役 | 役 |

役

よき。ハ。ふ。き。て。き。思。ひ。き。う。か。き。あ。う。き。あり。き。
え。き。す。き。え。き。す。き。さ。う。き。す。の。お。ひ。の。き。く。
役。者。一。ハ。う。一。ト。一。ベ。ト。ト。一。役。一。演。一。役。一。
れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。れ。
上。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

上。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

| | |
|---|----|
| キ | こそ |
| セ | て |
| ハ | め |
| レ | れ |
| リ | キ |

次空
五空
四空
三空

○ こそ、そこなうといひとひつあまたれを猪をさへて
それを刺すとひすゑのひくわあけて
をくわすれとひくわの差別くされを ぞひろく
こそ、せかくのひべー是物猪のあひきく
モーリウハ まね まね まーれ まー、 れ、 ふきを
まき まき まき まき まき まき まき
ケラ 五空一言 二言 三言 けは、 五空
タリ て ま ト 五空 三言 二言 一言 ま
ひどく ま ト 五空 三言 二言 一言 ま
ひどく

○ こそノレモジニ レクトロモジニ こそノレモ
フコロサニ レクトロモジニ こそノレモ
キトロモジニ 日本紀美葉集よりあれば 千葉の中よ
入られど用をあらざり

○ こそノレモジニ レクトロモジニ こそノレモ
フコロサニ レクトロモジニ こそノレモ
グロモジニ あくまでも いも いも いも いも いも
ひどく ま ト 五空 三言 二言 一言 ま
ひどく

○ こそノレモジニ 上がり そ。 そ。 そ。 そ。 そ。 そ。 そ。

問ふ候上より そ。 よ。 そ。 そ。 そ。 そ。 そ。
フと うあともまづとす ト有

| | |
|---|---|
| モ | そ |
| そ | そ |
| そ | そ |
| モ | そ |

ま
つか

○**トモハ** てむせ わぞくあくべ

年でくねみき おむをつ まよおひがねをす
朴代をきき、高らきうちへ おおおひがねをす

○**伎** **トハ**

そのやねこそと。 まももむじび切みて強ひて
下向もあれ うすもあれでで。を。か。き。
ス切うもかうて切うのわくとをうすす。
そのやねをいそばやめかうとひよよ後と
ソノウカベ

○**何**

さきをと おと ふと はづく 回で いづれ
ソノウカベ まよおひがねをす
ソノウカベ

○**や**

ハうきひがねやをす えひまかくうて そとやとのう
シトカタモジカウタムカハ やおひがねをす

○**ハ** つるののうへあくま

きのうき 花のうさん まよおひがねのをす

○**そ**

のや け そ ありき ひがね くらべ

○**ぞ**

や な そ あるものへ かうひがね くらべ

○**の**

おりも そ はうろき ひがね くらべ

○**ぞ**

のや く そ そ ト かくまう け おり ひがね くらべ

○ 定より格あそびれり ておをもとのそよとハせぬ
奇を御加減す 変格へり 変格へ格をもれてそのれ
このほやるよのみて そをてすと ちよのこころへ 横
事もとまれるそとく おもと おもと おもと おもと おも
と 三十そもハ しゆべ

○きれきだひぐきくら詞ね儀をさへつて下り
もまじふかくくの一つの詞すがうと又
へうてとてぬふあがくとすもあとこれも
トのあまじみハカくくの一つの詞ス

詠ふ詞すみてノ里語ハ

ナニトツ

詠ふ詞すみてノ里語ハ

ナニトツ

○そのや何もまじ詞すみ

次至つき。至る。一。不。め。是。を。す。又。る。ま。る。
か。ち。む。か。る。も。け。な。せ。か。る。と。れ。る。そ。
お。お。ハ。み。え。で。く。格。め。迎。上。ち。そ。の。や。何。
も。そ。く。る。時。ハ。も。ま。じ。と。ち。う。て。切。そ。く。ス。詠。び。ち。う。

六

甲子
篠倉職人老狩合 二十四番
花述懐二駕狩合 三十番
建保職人狩合 五番
永正五年正月二日狩合 始番

七十老職人老狩合

光廣御職人歎仙 三十六人

これらの方はうつねあるが、あわてておのすのやを
あきうれ替ひてへゝるハ

新古今役者集

○ておをほのとハ

てふをとのとハ神代よりおづくとある

テノ集のりともももとがまくあそまることハ定まり
くるものありしにすまひのともがくハその詞はり
ももとせりくひがむることやあくんとば次引
リ奇をあほくいふてもとノ集の本とあとの
ちうくをつけてそとくち格をあくらスモシニ
まのゆゑあるとけてりぞきことじあへたるやもくえた
ちかくをつけてり金そんねべ

集解入事合 二十番
新古今事合 十四番

口ノ七

アドカラヌトキモアキ

○を。を。後ノもをびけ

次矢ト。立去。き。そ。ぞ。く。つ。至。ぬ。ふ。む。ゆ。

3。り。是。お。ハ。つ。ゆ。も。切。そ。替。の。因。へ

○引奇が上の。口。は。立。ハ。ぞ。の。や。仰。む。と。後。ノ。も。を。び。ツ。向。ス
後。は。私。ふ。も。も。一。ツ。立。て。レ。せ。る。を。足。合。て。ん。古。ベ。ー
○奇。ト。立。向。ハ。人。立。ト。ウ。ク。ト。レ。ア。ト。ク。ト。レ。ア。ト。立。向。ト。立。ゆ
む。う。ノ。及。レ。オ。ヌ。ス。カ。ウ。ノ。及。レ。オ。ヌ。カ。ウ。ノ。及。レ。ア。ト。立。て。あ。ト。

ツ。ロ。向。う

古今

在。私。サ。ホ。ミ。テ。様。の。あ。り。セ。バ。ま。私。ル。和。の。ド。け。ク。ホ。リ

全集

年。れ。ぬ。と。さ。あ。り。こ。そ。ハ。き。ク。ホ。リ。カ。レ。ク。新。古。の。う。ひ。づ。り。ざ。レ。バ

○ らうとふ詞ハ らくわ。 らめうとノテモカクル詞と呼ゆ

ニ童反 それぞ らむノ反シ るうノ反シ らニ 又
らかノ反シ れうノ反シ らくかくスウテ らい
ソヘリトのう

古今 えよの山乃ちきつて らうと方里をくすりあひるを
後報 わぬ根の風の音を聞きせてハニ三面帳を紙ハひく新カリ

○ ケリハ まみりう らうとハリ

ケリハ ケリハ リルハ ケレラハ

でまくくる詞と呼ゆ

○ もう までかうを倍を二トえて とくでうるまえ

ヌもまびとをとくへまくアセテ とくうり下上のより

七

の繕ひ詞のあきもあき

後撰

已もみと花をも見ると あら人のことかとゆきを まきもまき
くを くを くを 級ト花見びて 加くもと とト文こ下へ下へ
モリ 又もまびとをとくへまくアセテ とくうり下上のより

古今 あらりくをとくんせくとくねをとくとくらでちれ

くを くを くを い花をとくんせくとくとくらでちれとくとく

あら御子 あらんと あらまびととくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

おとととととととととととととととととととととと

○ もハ 亂 おあさハ あまひ御あがくとくとくとく

おととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととと

主あるじもあらゆる物をめざす。川島をとんでもくね

マ

○引歌ハ代よりは機車歌との集又そのかうりの前まゝ
物語のこゝと日記の詞をもじびせり。前はとおよりて、
トの歌を添又上へ下へ並るとのままである。此歌ハ
「山下をつくづくせし格好と今へ」。初学者のとお
がく歌はあらんともりかとハ廻りかくばいといひと
うけれハくるきーとあらひます。ひそ

詞の歴ちての目録

| | | | |
|-----|-------|---------|-------|
| その船 | 九の歌 | てその船 | 百十の歌 |
| 乃の船 | 二十一の歌 | うふの歌 | 百十二の歌 |
| やの船 | 二十六の歌 | つの船 | 百三十の歌 |
| かの船 | 五十尺の歌 | 上へうるてふと | 百三十の歌 |
| 何の船 | 六十一の歌 | 百四十一の歌 | |
| その船 | 八十六の歌 | | |
| もの歌 | 九十五の歌 | | |
| 懲の歌 | 百の歌 | | |

曾之部

早レノハエヨリぞのや。シテカク時ハウ
セシム格ニ又ツラモキルは其ひのリ奇も因の不ふ出キ

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|
| そ | く | す | つ | 不 | ノ | ぬ | ふ | む | る | 現生 | 五去 |
| | | | | | | | | | | | まー |

く。古今

あうだの時乃ちひがきとおうたまうがすみ安ハれぞうぞうく

○りひけよそむまぐるハ

おま今 うううべんのあう秋すれをいやハよそみぞまくの上ひ落

く。金樂 まうあゆれて行ひ山さう風のくへおあく一セゼふく

おなめき せきぞハ物やがむこえ

す。吉今 神まうるさみあすひのそろづ八十氏人のかぎ一こそす

す。吉今 あううあう波ぞ神ふ玉をもすゑハせれひを御つせられバ

九

木き ○ひひうげそちまくハ

わうあればくばのいぞつく一松さしてあうべたちど候とすねハ
是ハくとのくとづく。トいそとくひひうけそむそべり

つ。後撰 天の川寒こうを波乃キもちかてれめちのきふを一ぞまつ

石石 古今 さうう飛とくうちぬもありあくぞ人のくろぞ風もうをひくみ
た。を。後もうてかる時ハモトもくぶ極之

○ひひうけそむまくハ

形古今 さううをやおりかんをさてのいハえぞやまうの井もはまぐみ
是ハえぞやする。トももく石ノ井をじょとくとくかしてひひうみ

むまぐりスミムさざや。神がひのやくは、びふかたくそ
ふ。古今 まもとくへりばもうくひものあらぬうきりハアドこそ思ふ

九

○ツムケキセキスルハ

古今　高くてやれおと育トコトスルをあひ故のゆアケドリはあきもあツアシクまん
あけくねハむうしおのミタガつぶるふまきの高め神カミムヘテ

ム　このをさうツムケハ

ム　エラヨをかくこそ思ひつき相の言葉きくごくうらぎにて
ム　古佐見江文幸　景ハイ布ニをしてぞすすと有りムケハあへを

ム　ヒト文字をぶにあらぬちーうらハナ文字あるてどあるぶ
む。　いよ人のやあが志三づゆうけれじきのあらねあらへをくむ
ム。　うじたまきひそのてそも居てんじ女の被ハヤシをそほくもとも
ム。　古吉　車日ゆふみを坐つてほく美代をいたぐらム神モムラム

叶つ。　ハでうじよて

ム　秋ちびの東乃あらふ寫スルれく秋もさざとまるう
ム。

十

○詞を説ててあをひせきをせきをうきをすらハ

機宣

えくごる御身ハ下アシの山ヤマトテゆれテるれもけりたうく
是ハ高アシの山ヤマトユ下アシへあんト行ハシメてマス

ム

太タマも

あしやシトヲうさんツてシれりんシあ。　あはな波ハシメのシハモシだ。

ム

多タチも

おもシり。　おもシり。　松マツのシものシたてシきシ花ヒナシらシも

もシ。

太タマも

はおんハ。　おめミえス。　ベタスタキ。　あリのス又

六廿

これくふシあ。　おは段ハジノシきシ。　人ヒすシれシをありふル。　あー

毛ヒ詞シをシ。　あをシと文ヒあシ。　あシとシるテ。　小シをシあシ。　ぞシとシてシ。　^シとシ。　^シとシてシ。　おシとシ。　^シとシてシ。

傳せ物語文集

凡のへとくちよりハムをすすりける

もむんあてあるふくつけむくける

又ハあやんあてゆくしきる

さてちんあてからんすくありしきる

さむこうむし入らの都ミトメの室すりける

古今序
柿のりとまんぢらおんのひしりすりける

かろぐちんあらぬ不ふ

下つめ時そつうりふちんぢらゆるよる

うけふの文集

あみれすがんある

モハ一本ニあみれみもんをあるト有ヤハギ一傳す

べ

古今文集

人あるものうちぎく如んきげく

是ハ一本ニうちぎくおんめりト有

是ハ

得りうちベーリトろハトく似りス

一本ニハうちをきあんぞうげクト有

是も写

得りうちベーラチヂムトもあくイとおも写

一傳うあわらをさトろーるうコトボトハト

似り

はぞノきのあんぞう代うちもとるハちまびくに

ぞニキアリきやもとされば

○ソシケキもまくらハ

古今 てやのこみり、ごにまちぞよろまちのほ山乃うげ城にひつ

ふ我

古今 こえがみて今ぞうぢふくへる山嘉みよき乃ふまことほり

ちむ後あらてぞたきつま川ハ兵士よまでのるふとわらわ。

是ハ先てをたまるトソんとて漱つあ川と
りひもくてもまびすくアヘテナリ 又この
フトよまハ 漱つ波 漱つ白波 露漱つ波の水上
又あまうす あまつね 泡つ白波 クムツキ
マリウキ まのたどしのフハララゲてノミ
モのう

古今
こきちを漱のあをもろひまでをねきぬ波みぞく
上よりぞのやう。まそをかうて うる。よも。之る。
あとのまひぬ泡ハ 置トハソヌル泡ハ 置トイモミ
シモハソトもまぶ格ミ

古今
えの川、まほとをそなやらればひうどくば月をすがる
みごく 置トハソヌル泡ハモモ。後。まもてから射ハ

モジハソル たのする モジハソル あくもまぶ

格ミキモバ

古今

月あみをもめん人あらかだすりあもみをもむ

モジハソル 在トガラ射ハヤム。一ノタコニ上ナリ
モのや。15。まもてから射ハナムトモシモゲ
モジハソル そののまくあを上のそ
ウリテモソミのまくあをモジハ

古今
タヤモモスモスモヒタシハモトニ「弱ふナウセテゼ」
上ナリモモスモスモヒタシハモトニ「弱ふナウセテゼ」

古今

古今

松之是ハぐもくもトモシモトモリ望又きくあり
あぐのたゞいがくハまくらあくとハツモセシ印
古佐見だくえまか

○風あくやすバ飛おきすすめりひく
キムギモトマクヒムクトミテ

是ハ後ノからそぐト角り

同ド見化文系み

○もつうお月ソでみくら山の鷲もあくて海
の中よりぞりでぐるト角り

三

後共き

うれ一も里ふべう一けあーもぞいとあけきのそあくち

上ようちを。後、是をから時ハ人ちも、身の後

二二

是もを一モあがトモ、ゆきも、あくもをよ之又
古佐見 夏まニ

○はくもをちとくらで、私ふの、べきあくも
うれこれあるちくねたくらをトヨタリ

是ハ後ノからみればもトヨタリ

三

古今

あくびきの山アのあぐられて、はづくをせきども

上うりを。後、是をから時ハ、もつてうる後

是もつとモつる。トモのをくつこをり

三

古今

あくみの山アのあぐられて、あぐく一見、はづくをくつ

はづくを。後、是をから月を見て

古今アの月ハ後ノからそつとモつてうる

三

る

本き

すきの川とぞ「うふまれいび」をゆゑひよのあくふ
けむれりづくノ字下アリカムモアラヘー 上より
ぞのや仰多モカムキのとあるハ申のづくふ
る。くるも。ゆか。さ。ひ。る。そ。トソヌカムアベヤマ
あくまのとモウふすれす。トアレドモ 夏格ヒテ
トアリトヘ

事格

故をバ替トモキモ立スル。度の川書シヨヘどてつロ
是ハ國替アリアルバ。ト。シテ。ベキ格アリエ。ア
ルマタハ夏格之格ホムグレドヨリキモヒミのカ
ミのカモニルノ可ハアフドヘ シハトヲ内をみて
タニニ夏格ハツトヤれアミシ

早ノぬ

吉ヘ

アヘ

秋

ル

秋未ぬとくハヤシムズホモ風の木ふぞやぐらうね
上うり。和。後。年。モ。ア。ル。時。ヘ。ね。ト。一。字。ニ。夏。格。之
モ。ア。リ。の。カ。ル。モ。シ。ユ。リ。ミ。サ。ク。フ。ソ。ル。ニ。く。上。品
ク。ク。ヤ。シ。モ。ト。ア。レ。シ。モ。ジ。ツ。の。格。ハ。ナ。ア。シ。ル。ギ。ー
カ。の。カ。ル。モ。ア。ス。ル。モ。シ。チ。シ。ア。ル。ト。ア。ヌ。の。さ。モ。ア。シ。ユ
是。ア。ハ。ギ。ト。ア。ト。レ。ト。シ。ト。ニ。キ。モ。シ。の。一。ウ

古
主

あかしの山はるの山城主とさればうもてぞえいもるる
上よりたゞ。後の主をりて附へてゆきト有ら格へ
のハラタキの御あれば様もづれてもひもよトあり
のトカタで見ゆトあら例も有ふれどあることす

佐世物候ニ

ノ元主の山はるは、主のえどもなまくふまくともアヌ

けうへのすみ

ア
古今
ルモアス自ふるのちを筆ハセケの人の神とぞんと
シテ御格を見て上よりの夕暮るふとて るとゆきと
シテシテシテ

ルヘリ原野をすにてお一枝へもそてぞうするべくもる
是ハぞ二着ニツキアスる事もまた

○アマコトモアヒメハアヒセヒテテラサルのうと
是ハアヒセヒテテラサルのうと

主五

玉草
りをひもさをあうがく力のとて紙もぬばうそれのみうちら
まめをうぞのうのとあるといひのとて紙もぬく
る。わく。わく。そく。そく。しをじあだ下つて下に
是ハアヒセヒテテラサルのうと

○詞を説くて金をすとすとハ

後撰

年少れどかくもすみれ川くれ方ぞ今へ廣いの程本
古今

大々くハ月をもせ一ノ月をもみづれば人乃ちとあふ

後撰

ひくすうふ思ひがもひをふるてる人のこそれどよあふ

古今
社毎月時々すむすむの祭はるやかのすてをあ

右の言ひあは祠を説くすとすと。主べー

又何をうなでてすまにあかしやをひハ

(2) 古今
みのくふうぐる船乃石をくばとぞとすりこひまつてある
是ハこそぞそすりあつと。よどちあつ城モ朝トソ
むきび切をとへうすをうらえのとヌ是ハあをとるる

(2) 千秋
ひりやや四あらのとすくべれぞせんとせんかレシのを
えもこれぞそれある。もといかすとなる城モ朝トソ
むきび切をとへうすをうらえのと。内をかく

ませるハギのとくあくべス考のとすりて。すより上
上のちむきび切があるのもちと。うすや。故事のそ

(2) 明治集
衣までけさへぬれ。おもしる處の差は。すくやあらへ。うす
うす。ある。すすく。とく。とく。とく。とく。

コあしおうふぞよろ。山ぶきの音乃。ゆく井の川水

春の身ふくれ。ふと。おぞせせあつ。いひと。夜宿す。物
げあく。い。ハサ三のとく。なて。次のとくへ。たのとく
かく。ふく。一。食をと。あ。食をと。あ。

秋の月ひうすやけ。圓をと。山。う。圓風をむ。い
きの舞ひ。もよ。

林無月ひうす。をと。だ。うち。おれ。時。と。身のと。う。あり。け
け。う。と。や。を。い。と。う。と。や。を。あ。け。も。と。
な。ま。せ。そ。と。う。と。や。を。い。と。う。と。や。を。あ。け。も。と。
引。れ。い。考。と。う。と。や。を。い。と。う。と。や。を。あ。け。も。と。
引。え。い。考。と。う。と。や。を。い。と。う。と。や。を。あ。け。も。と。

方紫

あさごちのあらうゆふる波ひそよ手ねがまけちのあはきふ

ばさくいはあらうかとソトソトと又ざういがト
りふト。ありけるトレをあホリ合てえも

古今

氣ふすらなみく浮をきゆげばるもかれぬものあそありけ
る六版

月あふもあらうふもこそ秋にきけくもをもくをのふすりけ
はざりけかトスハぞ。あノ五。さこさうりハぞ。ありけ
てあをとそのことざるハ

萬葉方紫

秋の夜をらうとびぬそひげをあ里ふ人のきらめざりケ

古今

かひしげふたまくしゆるそまねび事へだとぞ時ぞともあき
用そノをハ切そど。うちもトテスヘづげて上のそヲ

きトむまぐり

方紫

古今
のこうすくちるぞとさき様花のりてを筆を筆をそのうれは
平ち後多はるそ
たのうつ日教つよりのうつてもすだうもうちがちくあそをき

ち希高ニカハらぬ夜アヨリのト有

上うう。と。若きそりる時ハア。ト望す。と。そ
むまが暮

古井

○アヒド。と。てもまび宿をたまつ。と。

アヒマウカ。と。あふもみあ。と。きくお茶がさ。やあふもみ。
その。や。お茶を。から。時ハ。も。さ。ト。も。お。べ。お。茶。を。
アヒマウカ。お。茶。を。たまつ。と。ト。リ。ア。一。五。ハ
あての。こ。ア。あ。そ。ア。く。時。の。こ。

琴

平古度。能。るそ
あれから。常。て。月。を。か。く。ね。ど。あ。う。お。ぎ。ハ。あ。ち。ぞ。え。ー。き

古今
1き

古今
かくすとあくら秋ふしもあくまくすむすあきすとばんぞうるーき
上ううむ。徒きそかく時ハク。ー段五。二

あまくわ枝

古今
1き

古今
あきとくらさーいされーねうりもあくようくをあきくちせー
け平をどそて。モノとお省くふをくらべーきーあき

1き
は提

あひそ。まあぐまじやとぞ四ひー。あきうらもこを高ーかりけり。
是ハトじそじて。すくえて代フ。でけくろ。おはを

リみト等くら。トくねてハ葉ふくー。むそびあぐわ下。

大

古今
1き

古今
あらゆるくしてのくぞをきー。うどく青きよりぬあふのねふ
是ふも。ト。あきじて。うどくまで。ト。たう。山と云乃

ト。ハ。アヌハ。スハ。く格の御。め。ベ。下。う。ど。下。を。あく
えろう。う。う。え。う。物。ま。で。ハ。上。の。ま。ハ。と。れ。ど。を。
コ。う。ど。あ。く。そ。う。タ。く。下。で。ハ。見。く。ル。く。一。ス。ニ。テ。ヲ
ト。ウ。ト。あ。く。そ。う。タ。く。下。で。ハ。見。く。ル。く。一。ス。ニ。テ。ヲ
の。ま。う。も。首。え。さ。れ。ど。ニ。モ。ラ。ト。ウ。ト。し。そ。う。ハ。か。う。く
連。ト。ウ。ト。下。で。ハ。見。く。ル。く。一。ス。ニ。テ。ヲ。ト。ウ。ト。し。そ。う。ハ。か。う。く
の。ま。う。も。首。え。さ。れ。ど。ニ。モ。ラ。ト。ウ。ト。し。そ。う。ハ。か。う。く

古今
1き

古今
あまくわ枝
て

古語

古今 ちの山すりとせてそくりか『アキハナリ先こえド』
トスラハクセドハ別ニ又ま。ヤトシ前ハまでムシのミル加ノミニ
マ。古今 けニモバ所モハ居ニギリアリキニモハリトモ居ニギリ
マ。古今 ト一伏ヘテ居ラモアタキニムカムルねをアリトモ居ニギリ
マ。古今 ト一伏ヘテ居ラモアタキニムカムルねをアリトモ居ニギリ
ラ。古今 不る人もちた山ナシムサクル花布ナシモ有ん後モさりナシ
ケラ。ハラヒトハ別ニ

レラ あたはれでうまきりゆくまとうもんのこうろをかれありレーハ。
レラ ハ因五郎ニ是ハケリキ。レル シテスルモレタ
モアトモ レラハケリト、アマリモル相ク
リハシヌレラニ又るクノ反シタヌレラノ反モラウレバ

九

ケリケルケルノ、カムレタラニトス

是より下ゆるきおぞトのミリヒテレメモキフ不乃モレ

古今 我意ハシモアリビムモアリアガガリモ思ふをクリジ。

古今 それを人あとがひをあざむのゆきゆきをの思ふこうそ。

古今 爰ふやぐをわ。ハクダニカムシヒテレモチヨキコムケルモ
トサスモニヘ時ぞ。アリヘタのまれぬあれアハレバキアリ事多

是ハ時ぞ。かくを二ト文て五つぞ

古今 あふよのやくあぞ。ハカリモアリ重のををうるもアリ

タモモアリ文て五つぞ

是ハセト切るを。アトモアリ。ヤハまで切

下へとくる詞

〔山やをきのそをまきるやノミニシ〕

〔何ぞ〕 金魚
あさうやこへあふごのまねぞ。よすぎをよも生れだしけり
是ハうごひてそひううぞ。こころ人あれがくを

うとがひてそひううぞ。よトスルトナリ

〔何ぞ〕 湘川石子
秋風ふちびく尾巻をゆふられた。社ぞどそりやまうされける。

た。社ぞ一かくを。ト安て下へできう

〔何ぞ〕 女音
女音歌あむくにむれうへたれうむーの声ふきよを
〔六帖〕 六帖

さうこの夜うしれまほ日中のみまつこーむたがことあそハ
モバトをラシムのいこをハミキ

〔何ぞ〕 おおき
いそだてこれこそきつ山里みいづりともう秋乃月をも
ぞわノをみハミキアモト屋うらす

二二

〔何ぞ〕

〔山やを〕 いのちやハ。かふをもとほのあづまのばくよーくを。もちくふ

けや。ハ。あ。そ。や。む。ニ。も。ふ。係。く。の。そ。て。え。か。ー。く。い
いのちや。あ。そ。ト。ソ。そ。と。ニ。ス。も。く。あ。ト。等。く。ハ。か。く。ハ

ひ。く。と。を。か。く。せ。く。上。へ。う。う。な。が。あ。く。金。情。あ。る。地
け。ぞ。や。ハ。あ。け。き。の。や。く。行。く。の。や。ハ。之。部。引

二二

〔山やを〕

年老うてひく姫妹あふ老罕もあふあたりて思ふらんやぞ。

〔山やを〕 い。う。す。一。時。ぞ。や。後。み。え。し。と。ハ。そ。れ。ま。ゆ。く。と。と。く。れ。ふ。る。心
思。ひ。ハ。せ。す。ト。ア。ま。と。ん。や。ぞ。ハ。す。ま。ま。く。て。く。ね。べ

二二

乃之部

の。ハアシナ。スアムモ。病のあと。神のうがぬ。
ミゾのまひを。トツベキヤ。モウホとの。トツを。ア
スの。モモ。ハラキ格の。ロクレバ。格ふと。アレテ。モム
ミタ。モジ。アラヒ。モサレモ。モレハ。ナヘヌ。トモ。

の

| | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| く | す | つ | 不 | ぬ | ふ | む | る | 吸 | き | 飞 | ま |
| く。 | す | つ | 不 | ぬ | ふ | む | る | 吸 | き | 飞 | ま |

く。喜立。花も。アラム。モツモカ。か。移。松。ふ。ヒモ。の。あく。
け。アラン。ハ。ス。ミ。ム。ニ。ル。ラ。ノ。ミ。レ。ラ。
つ。人。モ。レ。ヌ。ノ。モ。テ。ク。ミ。キ。ユ。ル。ヘ。ク。ト。ミ。の。カ。リ。ア。ゲ。モ。タ。フ。
候ねき
不_ぬ 宽平侍時后宮哥合
去年秋。其。又。マ。カ。テ。一。朝。公。ミ。往。ア。ム。ヌ。声。の。カ。モ。ヌ。
上。カ。リ。モ。モ。徳。多。ア。レ。バ。モ。之。
上。お。か。リ。モ。モ。徳。多。ア。レ。バ。後。之。

ふ。 年代
夕方や。秋。秋。あ。れ。を。く。り。つ。し。ミ。ケ。テ。神。ふ。身。の。お。紀。を。川
む。 古文書
山。す。ふ。子。神。を。そ。め。て。つ。れ。神。の。お。み。や。ふ。く。ふ。く。ち。う。
も。 神話
あれ。あ。う。福。に。の。ミ。え。一。差。の。ち。紀。与。ひ。ふ。む。モ。ア。レ。も。
り。 古文
ア。モ。ア。ギ。神。の。き。り。け。ん。ア。ム。ア。セ。の。坂。モ。ニ。モ。ダ。モ。ア。
る。 古文
神。乃。安。ふ。も。ア。モ。聲。モ。ナ。レ。山。神。乃。の。か。レ。バ。う。つ。ち。る。
モ。 中華集
梅。の。花。ア。ふ。も。ア。ツ。れ。う。シ。モ。の。ひ。く。く。モ。ツ。モ。ヒ。も。モ。ル。
秋。秋。候。や。山。乃。里。や。モ。ダ。モ。ン。に。ム。ナ。ケ。モ。モ。の。か。レ。モ。

る

千歳

官城野の森や。をしうめつまもん。花はーあら吉のつるある。

○初を海にて魚をとば食てゆるるハ
秋田村

梅は花はぬらう香もむりしめてあすトかくそのまの夜の月因

月トウサヘあすト初を海てゆるる

旅人の秋をまくとも秋風か夕日さひきえよのうけ船因

旅トアリトモト初を海てゆるる

○のハうき船の初をと船をとれてゆくとゆもへるト
春

玉づき小波のかるくらうてあざくらうかりのちくあり。
月を詠みこれハあると詠じても月をうねなし又あり

玉くもよかうたえ又一本みハ月ぞあくある。と詠ふハ

神くわうト有

る

千歳

秋の月。小かうそちんや。きたりけ。津波このものけことだれら

る

古今

あら坂の園をや。去もくえてさん。あらそ野山のけよハシモウル
春代ともてとおくあらを山やめあるやく泊のすらちよ

○格ふとづれてりトあまぐらハ

る

全集

あらふあらはあらハ十おありあらを山ふう川のまわきうる
早とねハ上とばかり。いと海きあれ。ね。とすせ

旅もあけばまつぶらまきとさくのとれみつてせせばやうつ
川くもあと。トソヒハ。あらあん。ほくよくあだ
あんあれ。あれと。あん。歌ふと。あんあれと

古今 おうけりー神の中あ。つふん。あたすひのまことちも。
古今 お古今 时をふとむよ。おうかうか。山乃まそふ戸のあち。
後撰 いふ。ノアハあくや。あく。けんのうーとのまきてほど。
古今 今。ハと豆び。あくや。あく。め。のこらも。わがり。ゑ。ばたのち。
おき おき おうで。おまも。ある。時を。おとと。うけて。戸のきて。ゆる
の。ハからき。格。おとと。ゆ。ト。あらも。あり

白ら。ゑ。三。る。そ
夕日。おとと。おとと。人。の。社。く。ら。そ。ゆ
け。ゆ。ト。おとと。を。おとと。の。く。ま。ハ。又。ゆ。ゆ
あ。く。ゆ。ト。おとと。ハ。く。そ。つ。み。か。む。る。あ。く。の。字。を。字
く。う。ゆ。え。て。おとと。と。あ。ど。り。ひ。ー。く。も。あ。ら。ゆ。

き

古今

い。満。く。れ。あ。冬。ー

あり

き

古今

上。お。か。り。を。お。後。の。お。そ。ゆ。ト。お。う。株。と。く。ー
ひ。く。り。して。お。を。思。く。で。秋。の。田。乃。稻。米。の。そ。く。り。人。の。あ。き
○。の。ハ。う。花。格。ゆ。も。花。格。ゆ。も。れ。て。お。そ。く。モ。も。も。ぶ。こ。そ

き

後撰

古今 秋。麻。を。お。み。あ。せ。そ。せ。麻。は。ち。ハ。ス。そ。も。で。ち。の。さ。や。う。そ
花。の。あ。ハ。を。あ。か。り。て。入。へ。ぞ。も。多。ひ。ふ。白。人。の。あ。く。へ。く
吹。風。乃。さ。そ。ふ。手。の。と。ハ。ま。り。あ。う。ち。う。め。る。花。の。あ。ひ。て。意。ー。き

古今 その。末。て。山。も。あ。く。を。ふ。本。の。そ。う。び。ね。こ。へ。岩。お。ま。び。ー。き
上。お。う。を。お。伝。多。そ。か。う。財。ハ。こ。ひ。ー。ト。多。裕。之

河を越め 上みどりのや。行 等のことをあつて 一きを
並むるハハ代集のや。ふはげ。一そのえを後お十三代
集やも お坐風雅みのくありと外の集みハ一そも
スミモト有ト畧

兼好法作がれくすふ

新古今の歌のうねざへまゆにさひしれくつる
可をぞつふすむやとくふくびけくもぐく
ミトヤシゆく人ト有

建保四年哥令

や。つらすふせぐのあらすみ被がけてとろほ人のかざりから

毛より下ハキムハカタムの。土べざすをつ

二十一

○上みどりのく葉をあじて すもむく行ふて
ちまじてすもむぞトツドをきやくすふと
のトツくるハ

古今
きのふことそさち。うのや。ふ稿集をよびて秋風のふく

すもむぞのふ葉集あやまつての神すちとて人のゆく

おき
毛ホハムジのや。うん。ちまづらふどるの。

チ成
秋風やあらすみのうてつみあんちづくより神のかとうぬ
けふ然ふ件ののりへつみのふくすくあけ
れどかくすみのとくうくのトツべき格あら
うくすみのとくうくあせうト有

○のトありちくハ

さくまふせ風印さむき秋夜の月はるゆくとくのてうの。

けうもゆく。ハホのとせうこよくうりてす
えく人のわがしきもゆくとく

まむやまを

まむ

同くとだふそくをあるうか。冬の夜のかく神ふむをぶ冰の。

みがのから神ふむをぶ冰の。さくがむくとく

もあるうかトあるとく

まむ

あふれてしてだく。さくうか。だやちもとく。あふくねの。
あやかもとく。だすれうね。あふれてしてだあきく

もとく。あるとく

まむ

みがひせー約のとく。だく。あつだも。有う。冷のやこの。
じのての。つまびら。有う。あるとく

二十一

11. 南山の音ノ内多良井村
ら里その音ノ内多良井村
りどけるハ。まると。かりて。多良井の。まちれ
を。かりて。うかト。あるハ。の。うけ。す。の。づ
ある。もの。とも。かりと。られば。この。ある。お。す。代。この
悔集。又。家。の。集。も。と。よ。れ。き。う。家。の。集。男
中。小。ら。け。ん。き。の。ま。と。よ。う。の。あ。う。乃。す。
あれ。ど。も。う。か。ト。う。き。の。ま。と。よ。う。の。あ。う。乃。す。
家。の。集。も。ま。れ。か。ア。れ。バ。と。よ。う。の。よ。も。下
た。と。と。あ。ぐ。一

6

也之部

早ニシテハモ之をやどる。〔ヨリ〕ノ而も引手を
ひて又〔ヨリ〕と、之をやハトやハノミ、やノ上
トハ云れとくねべ。

うながいのや

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| く | す | つ | 不 | ぬ | ふ | む | る | 既 | き | さ | 去 | ま | 一 |
| ら | し | し | ノ | ム | ヒ | ム | ル | キ | シ | ミ | シ | マ | 一 |

く。古今、走車たまびく山乃さう花うろんとやあくそりゆく。
く。古今、そこひきは河やハマハマ山川の波き流す。そほと源へたで、
せやハハマヘミみうるやハく山川の波き流す。そ
あく波ハまてまましきだをもやハさとばとまきハ
せまぎトうまのうちやハく。

す。〔後唐機〕浦風やとみよ波こす。浪打つ乃、絶小あくぞれとくみまよ。

つ。〔源氏物語〕瀬をめや人をりとつ。東かくハカも、そほつまで源を意を
○ひひ、けきともすべく。
ぬ。〔古今集〕かくかく秋の風、やまづいたにちくらぬ枝あめく。
千五百葉
谷ヶ森あるのあうひれがれあこちきばやうんちづれもせぬ
是ハヤストアゲルをぬトむそり
上のかりたを。後等あめバモトじとぶ格入
てあをもそのえざるハ

ぬ。〔古今集〕あくのあくさすれをやおもがく、がくにくもゆてこひこを
詞を放ふけぞハぬ。此寫一作トモベート有
月やあくの長やむうはまやあくの我方ひくハトとの方やく
いあく。トハ上ハうてをひよふとをえやまく。

古今

梅の花ゑが神あれし。みかひそともちやむの。くみともばや

あわいぞ。けぞハかきどんたが神あれし。まほひぞ。ト

うごひてそひうるぞ。そひくらをとて来てアツケ

ソリとそだの。まやむの。トリるや。

初音がお月やあくねまやむすゑあくぬまが
ひくはくの音みてとふ本音の。一そのことを
もやあくとふ初音の。とえうりの。太字で
もとある。不く。や。おもむぎもすすみゆづ
てとむづるよのへと有

古今

あの音もおまうさ月ろほまの。うきとあれや。福取えてこめ

りくや。レバニマのまく。音を終ふソリ

二十七

古今

さくら花去らむる年。とくも人の。ふあれや。せぬ

古今

時もと急もきくべ山美ハキふらる。城了之や。せぬ

初音がお月の音の。ものや。ハの音も。初音
の。軍がくぬぐく思ふと。支子が。あれや。そ
せぬハ。ちと。あれぬ。と。あれ。う。と。ふ

と。同くや。ハせぬハ。ちと。う。と。め。う。と。う。

ク。と。ふ。と。へ。有

古今

男ひや。くもすふ。すう。モ。乃。ゆ。う。と。く。セ。ヤ。ハ。せ。ぬ

是ハ。ゆ。う。と。く。セ。ヤ。セ。ぬ。い。で。く。く。く。く。く。く。

も。す。ふ。そ。れ。よ。ア。ト。ア。キ。ま。す。金。修。あ。く

福。が。す。や。く。く。く。く。く。

ちぬ

原木屋未至

主家宿の益つろこきたをうれみあらゆハセぬ喜のあざうを

是ハ主家宿の益のえこきなをうれみあらゆのとぞうを

あひやハヤシなぞうのこづくートアラモコ

か。

法辨

神垂月祭りもや思ふりうだ祭のやじ時もあくようくみやう

ふ。

後文

たのもゑ食がのぶるもあバふ年もかくてらんとあすか

○ソシタケモてもまぐるハ

は辨

これやこのりもうすむとれてあらむよしぬもあふ仮乃せで

後文

けやハあふまでへかるとて

かくとどねえやハツふきのうもまほーもすばるさうおきいを

きハツくべきのうちやハ

かくとどねえやハツふきのうもまほーもすばるさうおきいを

二六八

令宗
東海をもあまいづるも月の詠かこよしやあふ歌の冥
候多成

む。雪月の浦水志も色望あらうやくとがるうげきをやつし

む。馬廻屋集
ものうもえぐやうくともど思ひよくとまぬくとくりけり

不(う)つてかよみてこればくすゆくと有

ちのうもえぞをもくとむり。思ひーふト、これハツヘ本

生ハスダヤキモムト加ト、とてえてよつてあ

きもくとてえ上ハシモ多御く頃も。よんく
けやハツくとてのうるとみはあくとや、とのやハ

ハハをあー

ム。古今
よき事ハ物語た時やさうさん花をちうわあすくれりや
まてきる人やまやソ前にしてそのうちやハ
まく神くわらやハれハせぞりとく
んじ。秋す今
まく事み多ものもくね物多の事をふ人のとちてまでく
ひ。 ほ松そ
まく事み多ものもくね物多の事をふ人のとちてまでく
はややくけやばくのうのうるやハアくを
い。 あそくや
まく事み多のあんくくうれのあくまをちき
毛もやくあや。

○句を述べて下を右段ですこ
草
会風ふとる事作めひまとまちをくらへる事の花
毛ハシルトナヘモスルトナヘ
好古集
まく事み多の事かのまかの一つせぬあややううの
うさ

二十九

きあも かくくト便をすこ
伊セカ直
くんやのえのね良^間
毛古今
おもむかひくびとがえつる事かのうすあや
風雅
おやさ^口麗やけ^口明^口
くわざく
ことなるうもく
○こむそび句をやうとく
千五百多
四ひいでよ「やうの事をたかひうをこれやあせきふまくねうと
そハなれりありあらんど思ひそよ上つてうてある
まくあらへト下句をとへやうとくううのうく
句を書てすきトすがじやモー

む

古今アソのミヤ人あがめん山さくもとおれで家でみせし
けやハシスのつゝるやハノミ、やアソのミヤハ人ふ

カクシ人見てむうハタリハセモトミのう

やハ、ミサカヘ

む。

おと々
アソそまく夜やいがきる萬るん入ハまくはとおりあを
そハヤトシハトシヒシトモビトモモビト

む。

ほね
大さく、あざやれとおもむく人ふかくらん
そハアゼトモケレハヤトシハトシヒシトモモビト

をくくわく人くわくわ、をく

○いひうけおてむら、るハ

彩吉ア
おも今やころもほうづの山をまくらふとのちを

三十一

む。

後撰
おもが葉解ぬまとすれてかドツ秋とも霜ゆえどもく
是ハミタシトモミトモ

む。

後撰
おもちちハかれとてもうを玉乃京思み波あでぞや有け
六帖

む。

後撰
おもあくあだくうねてる日ふもやれたらあやあすあり
六帖

おもあくあだくうねてる日ふもやれたらあやあすあり
六帖

おもあくあだくうねてる日ふもやれたらあやあすあり
六帖

おもあくあだくうねてらあやあすあり

けす一本よ。されやあふあ。ト有。初多め小言後ハ
詞を傳て字をもつて。アリ。亦やあふあり。アリ
ケヘト後ミ字をもつて。

〔け〕
〔キ〕

ツレテ。カニハギ。レバトドナ。ヘトモアキトアリ。サ

上モ行。カクテ。トヒミ。ヒシ。ヒス。ハケヘニ。有。

〔え〕
〔エ〕

カニ。ヤホ。モ。カニ。ウチ。モ。ヤ。ダ。リ。セ。バ。ア。ヤ。ア。、
タ。ギ。の。名。ニ。又。ヤ。ダ。リ。セ。バ。ヤ。ダ。レ。バ。リ。セ。反。レ。ニ

〔え〕
〔エ〕

カ。ク。レ。テ。ヤ。ア。チ。ヤ。考。ミ。シ。ウ。タ。萬。本。代。の。ミ。モ。ナ。ク。ム。

是。ハ。シ。ミ。ギ。の。ヤ。ヲ。ニ。タ。シ。テ。二。の。ミ。ア。テ。モ。ア。リ。

〔オ〕

○。シ。ヒ。ミ。テ。モ。ミ。ギ。ル。ハ。

〔オ〕
〔キ〕

キ。シ。シ。ア。ケ。ア。ヤ。ツ。シ。ミ。ア。ミ。の。教。乃。ナ。リ。ヒ。モ。レ。テ。メ。人。ヒ。シ。カ。ハ。

〔キ〕
〔キ〕

タ。カ。シ。ア。シ。シ。ヒ。シ。モ。チ。ク。シ。ミ。シ。ギ。シ。シ。ヒ。シ。シ。ヒ。シ。シ。ヒ。シ。シ。ヒ。シ。

〔キ〕
〔キ〕

○。シ。ヒ。ミ。テ。モ。ミ。ギ。ル。ハ。

〔キ〕
〔キ〕

ア。リ。ト。ア。テ。ナ。ギ。カ。ミ。室。様。乃。ナ。ギ。モ。ト。ア。リ。ヒ。シ。ア。リ。

〔キ〕
〔キ〕

時。季。モ。ア。テ。ハ。ジ。ビ。ト。ヤ。ア。シ。ミ。リ。ワ。リ。サ。ハ。別。レ。の。キ。ヒ。ミ。ヤ。シ。ヒ。

〔キ〕
〔キ〕

ハ。コ。ミ。ル。ト。ア。シ。ミ。リ。ト。ハ。リ。モ。レ。ヌ。ミ。モ。ニ。シ。ト。ト。ア。シ。ミ。

〔キ〕
〔キ〕

シ。ヒ。シ。モ。ハ。シ。シ。シ。モ。ハ。シ。シ。シ。モ。ハ。シ。シ。シ。モ。ハ。シ。シ。シ。モ。ハ。シ。シ。シ。

〔キ〕
〔キ〕

引。ギ。シ。ア。リ。シ。モ。シ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。

〔キ〕
〔キ〕

モ。ル。ト。シ。シ。レ。ヌ。モ。ハ。シ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。

〔キ〕
〔キ〕

リ。モ。ト。シ。シ。レ。ヌ。モ。ハ。シ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。モ。モ。シ。

〔キ〕
〔キ〕

シ。シ。シ。モ。

〔キ〕
〔キ〕

シ。シ。シ。モ。

(五) ある。トソされぬ。ふ。ハ。う。ふ。かく。あ。ふ。 あ。く。ふ。
いと。ふ。え。く。ふ。 ふ。え。ふ。

き。の。ま。ひ。又。

(六) ち。む。ト。ソ。れ。ぬ。む。ハ。く。む。く。む。づ。む。た。の。一。む。
五。づ。む。四。む。 き。の。た。が。ひ。ハ。と。後。ぞ。の。ゆ。行。

五。づ。む。四。む。 き。の。た。が。ひ。ハ。と。後。ぞ。の。ゆ。行。
も。の。も。ま。じ。ハ。う。か。う。 け。下。を。一。す。て。
佐。ノ。教。め。ま。ふ。五。づ。む。を。そ。合。て。く。ね。ベ。 上。よ。う。
ぞ。の。や。仰。き。み。そ。か。れ。バ。 右。ト。り。そ。う。 け。下。ト
む。ま。ま。が。格。之。

(七) 古。今。セ。タ。シ。今。や。こ。う。る。 あ。す。お。前。か。を。考。立。く。あ。す。あ。く。す。
古。今。秋。の。因。乃。極。上。を。て。た。稀。ア。ヒ。う。る。お。も。家。や。正。モ。引。
ひ。や。ハ。う。と。き。め。う。る。 や。ハ。こ。の。 や。ベ。 し。は。ハ。可。モ。う。

コ。モ。レ。ハ。せ。ぬ。ま。の。を。ト。リ。ま。く。

古。今。

ま。の。お。お。墨。ハ。ら。や。す。一。梅。の。花。多。見。そ。ア。キ。ヤ。ハ。か。く。引。

是。も。も。く。そ。の。く。る。や。バ。

○。ワ。リ。う。け。先。む。ま。ぎ。ハ。

古。今。

秋。の。秋。乃。月。や。キ。一。あ。ら。よ。み。そ。う。ゆ。く。あ。う。た。沖。の。つ。り。ぎ。

是。ハ。月。や。キ。一。あ。ら。そ。ト。り。ぎ。を。キ。一。チ。ツ。は。ア。ま。あ。

大。ト。ワ。リ。う。け。先。む。ま。ぎ。ハ。

古。今。

白。め。の。波。流。マ。ケ。テ。や。モ。ハ。く。風。す。く。ま。た。光。も。さ。き。け。り。

○。と。文。字。へ。む。ま。ぎ。羽。を。あ。く。ナ。セ。く。る。ハ。

人。金。れ。ぞ。い。ま。や。り。ま。や。と。あ。あ。だ。う。林。さ。ざ。す。で。鳥。を。こ。そ。き。そ。

是。ハ。今。や。く。今。や。紅。ト。ワ。リ。き。そ。そ。も。く。ト。ワ。リ。も。ま。ぎ。

(八)

古。今。

初在ニ一立ナセモアヘテ起テ

ホキ至モ
みてぐのまうやいもとの川流や山乃きもぢもぬまやたむく

〔けやくうらげまやもそびみハカムベヒタダヒ〕

古今ニ國りくをあくやまめの

同 栗の戸をさすや。日うげの

朝暮 四つあぎみやくや。日うげの

古今序 鶴波はふさくや。この花 まめたびひのや。

○りひしきをしをづハ
〔物古今〕山うつの麻乃さざれもをさばひもあひで月日や秋やうひは

是へあそで月日やもぐるトツモモリをりひしきを

むそざ

月清集 ふく風やまゆまくまちをせせ山をかわすぎる花のまく

二十三

〔後撰〕あらびきまきる人あそせや立ちまくまれのゑみかくらもつる
すくもつるごとく あそやノ。サニのミト人ねて

又上うりを。を。徒多モカム時ハモウフト萬物

物事奉 ○ひへづけんと。格をとぐてもどづハ

うちゆふ思ひやくづと古きの恩がまよて。まわすうりけり

そのや。たまもかれバ。ひづ。トももも格あるを

トヘドクと。格をとぐてもどづハ

〔後撰〕駆はぐりつむ草乃あーでのひとももるはこれや。つゞ

是ハくまもするや。まくとや。

古今 いせぬ海すりまくらもあくけちれやくひとうをさぐらまよ

初玉也みけりやハレニマツモありとこう
れやもそせりあり くをつけてス合べ

早うぬ

お古今

山あらふ席の神すく守やまう尾上の月みか夜や史朝

千代

如古の源か霞やみだらをもたれいと神の心をも。

上ばかりも。モ徳の時ハそよトる後

後多武

石毛。後之部

奇を又々そんじべ
いとまくもやもむる。清音余きそふまの秋まかせて

古今

ちう

くべきもど時とゆりやもとびてあくちる声の人をどうも。

是も〔レバニ〕のまがゆや。羽五郎おけゆや。

れをやとアミコアムキシホをなまきて
ればやマ

とる例ハ年もすすむをもとまきを又々ぞとも里して

ゆやととる例もまたはつてもあほ。

かわをゆげやとる。思ひを男へやもつて
まひもへとしけゆハ便加をもとへできてこぢりト
まよやももじびくト有

ゆる。身古のどんくませまうみにんじとやえんじ。するはゆの月

ゆトもととハギスモアリス。モ徳之部ゆくも

そととそんがく。

ゆる。身古の神をやうれり山川はもがくのこくやうゆの

けゆる。うちうけりうもあせもあども。うとむづ。

上ばかりも。モ徳多あれバ。リトテノ移

上ばかりものや。何をもの財ハ。るト。うね格もくひ。

古今。まほきまをえきとせらねをあざれり。まよやもゆる。

る

古今
法禁

今人をやくちとけぬべきとおもひのんやままでをばやへけり
る 源氏ひ女

る

古今

掌乃もうりはういてさくべもあづくふ箇のふやたせたら
る

る

古今

喰風をあそぶよ學をあやハ祖うもむにあれたら
る

る

源氏
法禁

てれをさばうたをのみうちゆびすれぬ人やくふとある
る ほせお風

る

いさくわハもくみしもほせねばざとある下やねりふりせり

る

いせるハおれくおれくおれく

る

古今
源氏

たぐりふりてさくせる布をもやとせへてそれども人もあき
る 上せかうくと後手あればあーとあまふ枝

ちのれやハ上身たがつゝがいの間ありて オロホ
あくべ下をきトおまめりけまひの
上 國 也

もまじ詞ノあら わやノやを

詞をもあらがはりハ上みたが りくらをア羽を立て
ひをももあじ羽でそむくるやるふあり や冬ふを
むかへてこればんねやをーと有 け国 そノれト又
まふとせるれを名 のまみねや二ツバ下をむまび詞を
もまぶこけ下のあまびわからくみね れやえつだりこれ
けあふいとも

起

子井

男やとみ枝よや士達きとあこまよとせめ教乃かくみやうり
處をうりぬさん神乃かくみハ君が男ひのちぞやまくあき

起

後撰

處をうりぬさん神乃かくみハ君が男ひのちぞやまくあき

次生

古今

まちやとき花やむそきと呼こえんせんにもあらぞもほるる

次生

古今

んをぞ。そりあれきと思ひゆ。だぬみのくやゑーからべき
けや。ハシゴこのよるやハノミノヤ。こゝろぬよのくや

高一るべきアソムトモ高一トアソム

次生

古今

まくはれ人のをぞみうかび生てこりをやなれを。スもむべき
けたれ。トドも。また15ノリもトツるツツの初

そものらきびがちを。泪をぞてもモテテ
たがりつちり。トツしてりのもをじるはく。さくねに
えくとくへどハねえぬふしぐれバヌスムカベー

次生

古今

秋をきもみづをぬればきりくもれ袖ぬぢや。もハかる一き
上ようそを後急少てかる時ハ。かち。14。おうせ

次生

古今

あぐんをもひにすうてうあ。さめ。あるや草ーきくちや。もーき

まくは

」

古今
そゆ。おもいきこととぞおも。我里ふ人。あらや。ち。や
是ハかきやうきのくらを。ト来て。と。で。げ。て。上。
く。と。國。く。と。と。ん。と。る。く。り。モ。次。10。モ。切。

間。す。り。又。ある。も。お。ま。も。ゆ。あ。ハ。て。く。間。く。つ。く

絆。を。ま。て。や。ト。く。バ。く。な。ひ。の。や。く。又。

か。る。そ

間。を。ま。て。や。ト。く。バ。か。う。く。や。く。か。う。く。や。く。と。ハ。く。

次生

古今

い。ち。ね。す。城。き。み。一。を。く。ち。す。の。あ。や。と。10。山。ぶ。だ。の。も。も。

後

於

古今　君やこ。家やゆたけんねうちもくをううつてう
古个　極。時花すちむほふらう。葉うつる秋みわんとやる。

古今　いや。ハシのうらやハシの。や。うらわはあん
古个　あそ一。うらわあそと。ハ極。よのトエ
古今　テート。ラーハス。望。ナード。ハ別々

古今　まアれバ。居。る。多。ア。モ。の。も。ち。ゆ。だ。ぶ。よ。こ。め。つ。て。ニ。ル。シ
千載　ま。ア。レ。バ。居。る。多。ア。モ。の。も。ち。ゆ。だ。ぶ。よ。こ。め。つ。て。ニ。ル。シ
古今　本。経。を。り。方。略。の。月。乃。女。く。き。バ。独。や。山。お。も。の。代。で。ア。カ。シ
後桃枝　ラ。一。　マ。ツ。ヤ。モ。ツ。移。あ。る。ら。一。時。を。老。ハ。森。え。ぞ。く。れ。一。か。り。け。る。
古今　ラ。ー。ト。ナ。ト。の。一。ベ。ス。ト。ロ。ふ。つ。ア。又。何。之。故。也。

シズミ

切や

後村を
とハなやと思ひやうびに薙け石をつみをもが神ハナチぬや

い。かをハそひうるそくいとぞゑが神ハモチぬや
切うや。

切うや。匂乃まうりふ有匂のそぢあともつて
をあそびあとハ

弓

け。おおとそらうとつて

○

○

○

切や

古今

まううの席ぞ。もくある。おきなむのがまもゆの花とよざ。

○切うや。のくへ。向かぬみ。おほうそ。もくじのや。
席のあうをきみて。石をもむをもび切めてもまか
詰のそぢあふみて。かうも。二ツうりて。おの

二十九

上うち文ることを合格を定めりうり

あうをゆき。やけ上ハかあべ。つく格の辞より文
もじもふれて切うや。け上ハ駒あべ。切う格の辞より文
もじがさざざありありト有

あうをふれてやけ上ハ駒あべ。つく格の辞より文
そのやう。もじもまび辞の中少
もと。ト。不。ぬ。を。あ。せ。を。た。り。り。
し。る。ゆ。早。く。ゆ。る。く。ゆ。も。も。
タツヌル。ゆ。ゆ。そ。ス。限。ま。ま。

あどハアヤベ。つく格の辞へ

上うち。そのや。何。も。そ。から。時。ハ。上。お。ま。び。ト。ス。て。切。られ
ども

「のあはづく辞へ又

とぢうあをてかうやか上ハからべに切う格の辞より
えらが定ナリ」とハ

も。そ。そ。そ。そ。そ。び辞ハすもかう。格の辞へ

況生ノ。と。去。き。も。も。き。り。あり。せり。あり。

ち。り。け。り。う。へ。り。れ。モ。レ。ぬ。タ。ヌ。ね。ウ。ト。ヌ。

つ。く。ふ。む。ゆ。可。る。あ。が。る。き。ま。る。ス。ぐ。る。

可。を。る。け。た。ご。め。る。ハ。き。ト。ソ。シ。く。る。を。そ。ト。

ツ。く。る。を。ふ。く。ス。あ。る。ち。る。あ。る。る。あ。の。

る。こ。く。一。是。ハ。不。下。す。ト。セ。ト。を。お。ま。し。を。く。ト。

ト。く。ス。ん。

た。の。じ。く。い。と。後。等。れ。も。多。い。辞。ハ。づ。く。も。か。う。と。辞。へ

ち。け。む。辞。を。一。ふ。ー。て

そ

と。去。き。ハ。足。き。せ。き。あ。り。き

お。ま。ひ。き。ま。れ。ど。お。た。ご。ひ。の。き。へ

| | | |
|---|---|---|
| く | 毛 | 手 |
| そ | つ | 手 |
| 早 | ぬ | 手 |
| ふ | し | 手 |
| し | ん | 手 |
| ゆ | り | 手 |
| ろ | り | 手 |
| と | き | 手 |
| さ | き | 手 |

六。五。一。ハ。う。一。三。一。ト。一。あ。一。高。一。お。ー。と。

○ う。く。う。し。の。や。ハ。五。序。く。格。の。あ。う。を。み。あ。り。て。ひ。を。筋。ぶ。筋。二。

口。切。う。や。ハ。お。ち。く。句。の。こ。す。り。み。あ。り。て。ひ。を。筋。ぶ。筋。二。

「あ。う。不。」や。 不。ぬ。ハ。づ。く。格。の。句。二。く。格。の。句。を。文。て。や。ト。

「あ。う。寺。」や。 寺。ハ。切。う。格。の。句。二。く。格。の。句。を。文。て。や。ト。

「思。ひ。づ。く。」や。 づ。ト。く。格。の。句。二。く。格。の。句。を。文。て。や。ト。

思。ひ。づ。く。や。 づ。ト。く。格。の。句。二。く。格。の。句。を。文。て。や。ト。

神ミタチめりや めトモトとく格のほく くみひのや
神ミタチめりや めトモトンバ切カツテ格のほく くみひのや

あるや あるトモトバでく格のほく くみひのや
ありや ありトモトバ切カツテ格のほく くみひのや

きこゆる ゆトモトンバでく格のほく くみひのや
きこゆや ゆトモトンバ切カツテ格のほく くみひのや

余アリハちふあまごへてくねべー 又加タクテ格のほく くみひのや
やトモトひても候マサニのあらをふあらハモテくくみひのや
ワシモトすすきありそのくとバ

えき 已アリれよことへされうたもううくもくにあとすすやうりけり

みごとく まきやトモトバ切カツテ格のほく くみひのや
まきやトモトバ切カツテ格のほく くみひのや
まきやトモトンバ切カツテ格のほく くみひのや
まきやトモトンバ切カツテ格のほく くみひのや
あると すのリキのや あるかく あるかくをリ
金カネアヌキレバつひさすのを嘆カツしてモズベー

古今 古事記傳コトノヒタガタ ある女メテ元ハタケのが至アリむ母モトの元ハタケとあらを加タクテ
け加タクテやハ句カタのをもろみひりてかくしきさすをくわ
それば句カタのをもろみひりてかくしきさすをくわ
くわくわのまひつひさすをくわ又加タクテやふすがひ
やすを紀タカラハ歎カツ息スヒそのや
河カワかきのさきぐ入スルのまほほのまほほ人ヒトをかくこひんとハ

是ハ人をうくこし人とはちとあやのトアヤリの事
てあげくやこけあけまつやモかみれどもかくとやとハ
ツヒドナウモアリけあゆきのやハ切てもアリ又
トやツモアドンしてあげまつやのさあるも
ありスの仰をみて セヤ クタヤ ハ
クシテタゲキヤモカクモカラニ歎氣のやへみ
あらふんをそそくねべーかハラヒミナアリテ
くまくらえ

切ミヤ 後於ま
アキホハキモチミミモ内ケルノの細布もアハトニヤ
是ハビヤトカナリニ五ノモ カクシ格の仰モビト文て
トロヤトシテ

又

切ミヤ

物古今

旅波ミド良芦のあーだも向くでけをばるアテヨミセ
モハヌアテホトアホモヤクモ仰を文てコヤトシテ

ヒム。モトハアホハムシジのヤムラガムホー

切ミヤ

大和風

巴れハサハモアミムキミヌヒヤ立ウレダモ仰めりニテモ
仰アリテハモアミムキミヌヒヤト上ヘアリテモ
スミシモモキミヌヒヤトアリ仰テ仰テ甚多を
ミト文テヤトシテ けテカトモヤトカクモ切
格の仰を文テコトヤトカクモムシジのヤハ

切ミヤ 古今
年のかまハ本すうひとせびとぞ。やつもテ。やさん
セハムシヒのヤ。ノミ。くろをもまじてひよほがむ

切やま

千歳
里それやあのがやつてらるすのかとせーほぐれのあ
をへかうてやうかうみてつうにてそじくらさん
あそぶあそくとせーほぐれのすをほぐれ第
ちのぶやうにト上へうりてらる

切やま

千歳
タキシム乍らくけきらがくら方ありやあそびやどもそかす
あるやトあるやトノヤトノヤトノヤト
四しだすうみこハぢやあ流川むをひるみす社へゆうやと
是へかういやラコト文てとくづけて上へうりてせし
あそぶ人子そなやトあるやとハナヤハ春ひのや
又社をなる。やーくばくとらのや

ひやま

今
掌乃坐ふゆをかわ拂ひぬれあくぞん。老うくらやと
うくら。やトノバくらのやめらひまくと。これハ
老うくらやトゆゑやラコト文てとくづけて。老うくらやと
おとがくんとよくすくと。又と。ひまくとゆゑ
こゑをと。ト文てとくづけると。

切やま

古今
あくねやとくらうらひのばたをあれかくたまで。意。一
是もゆうやと。ト文てとくづけて。スラウや
リバムがじのや。ソレいざと。ゆくや。語のあくばふ
あくハおほく。ゆえてト一でけるのと
是ハおほく。まうや。ソレニケテハおほく。ゆくや。一
金作有つてあ

や何

秋き

秋吉く

秋

や何

秋吉く

秋

や何

後撰

後

人や

後撰

後

や何

後撰

後

我神のタタキやもふのかどぞ。秋のタタキを半。やふとそまつ
是ハヤシカのひとゼトミガモヒシムギズ
かるを。とて。とて。とて。

人や

後撰

後

年みぢりて。ひと。お味ふあ。味。年もあ。味。年もあ。味。年もあ。
けんや。は。ちほく。まき。は。人や。は。まく。まく。乃
うきこ。けんや。そ。ま。ハ。年みぢりて。ひと。あ。味。年
あ。味。年も。味。みぢりて。あり。あ。人や。ハ。ぞ。れ。あ
ナ。ナ。ナ。ナ。ハ。せ。ナ。ナ。ト。ゼ。ト。ソ。ナ。ナ。け。ん。や。そ。ハ。ぞ。之。終。も。出。平
とも。奇。の。さ。ハ。足。あ。が。と。ハ。足。す。人。や。な。も。ひ。て
せ。ナ。ト。ゼ。ト。ソ。ナ。ナ。ま。て。人。や。又。や。

ナリヤトソ前ハラヘミのノル やハノミ

ナリヤギトソ辞を

ナリヤヒナヒヤギトソニシタニキタニ古今アリモ
アリモ又後秋モヨリニキタニキタニ集ニモナシテ
アリモナシトナムモアリム辞ニト有

ナリヤ

ナリヤウツノミナシナリモアリムバモ一とナリハモ一やハ
シビバモ一とナリハモ一やハスムトモナシモ一トナリ
ミのスルヤハノミ

ナリヤ

ナリヤナカニナリヤハモナリヤナリヤナリヤナリヤ
ナリヤナカニナリヤハモナリヤナリヤナリヤナリヤ

ナリヤ

ナリヤケモニヤハモニヤモニヤモニヤモニヤモニヤ
ナリヤケモニヤハモニヤモニヤモニヤモニヤモニヤ

ナリヤ

ナリヤナカニナリヤナリヤナリヤナリヤナリヤ
ナリヤナカニナリヤナリヤナリヤナリヤナリヤ

ナリヤハノミ

ヤハモ

ヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハ
ヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハ

ヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハ
ヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハモニヤハ

古今　きもくへればまもねハあひみうゑをへしバハダムウヤハ
やハ　古今　みーあのちの御乃ちわざに人のまくべくとくしやを
。まくべーあれハまもねハあひみうゑをへしバハ
ざくらやいどうあさるもあんとよま

。まくべー人のまくべくあこひりもんのまくべく
こくねどもトワキモ

らぬ　あーびきおうやどよもせきをとぐでとくに地思ふらうや
いきもあくこくなくだの男あらうやあごくえ
をもの・あすかオードトワキモ「うき」がハんく
くのまくべ　らぬやハ　らんやハノモ
古今　思ひえんくをぞもにありもす。まくべやむくひきうけりやハ

アヌミー・や・あけきのや・トヌミー・むくひもく
ケリ・や・ハ・むくひとつまくともあこく・と・トソ・トス
上・ヌ・ナ・ト・カ・ム・ア・ス・レ・モ・ヤ・ハ・ト・ヌ・ク
やハ　人・ほ・テ・ハ・ヌ・一・セ・ヤ・ハ・モ・ロ・シ・ス・セ・ル・モ・ヌ・ギ
告・ハ・や・ハ・ラ・ド・モ・ト・エ・テ・ト・ヘ・ブ・ケ・テ・エ・ニ・カ・ク・ナ・セ・ル
シ・の・シ・カ・の・ヤ・ハ・ト・ハ・モ・ニ・一・異・く・人・づ・テ・ハ・ヌ・一・モ・ヤ・ハ
キ・や・く・ハ・よ・も・あ・く・モ・ト・よ・思・ゆ・く・く・意・や・く
く・ろ・も・ぞ・く・減・玉・ふ・足・セ・ト・や・ト・ア・シ・ニ・モ・ヤ・ハ・射・や・く
こ・が・神・を・秋・の・ま・ま・あ・く・く・ベ・だ・や・い・づ・れ・う・萬・の・お・免・ハ・ヨ・ミ・ル・と
是・公・く・も・ア・フ・ア・テ・ト・く・ダ・モ・ト・モ・ミ

古今　さつまこ・バ・や・も・あ・く・ミ・時・キ・サ・ド・リ・シ・カ・の・声・戸・球・き・う・や・く

較や

後於き

人らるくみせでや。はれも乃新度ニシテ其の御、死を
お候のあゆあらうむすめきづりもとくでや。思ふくを

見せをや。又かあたも あごのたびしもおゆ。

較や

後於き

お吉今
おゆ

おゆやハうきぬや。人ちのこゆもがよもきくらへき。
あふれば小田也すとをいとひらゆや。苞代もとえふまうせで

○後於き人てのこゆもくもすとくらへきをやハ
うきとのあゆやトからくねや。

○お吉今おゆハおゆられバ苞代もとえふまうせで小田の
おゆもくとくらへきをやトからくねや。

○お吉今おゆられや。ハある。あれや。ハある。おゆのこく。有

ア印くさん

